

	<p>(3) 講演語録 「失敗はしてもよい。本番で成功するために」 「努力したことがすべて報われるとは限らない。でも、成功した人はみんな努力している」</p> <p>(4) 講演の感想 ○先輩の話を聞いて、今の自分に必要なこと、大切なことがよくわかりました。 ○プロの選手の話聞く貴重な機会でした。自分にも出来そうなことがあったので、これからの人生に活かして生きたい。 ○実力や才能がなくても最後まであきらめずに努力すれば、成果は出ると感じました。</p> <p>2 夢に向かって進もう講演会</p> <p>(1) 演題「夢に向かって生きる」 パラ卓球で世界的に活躍する立石アルファ裕一選手を招聘し、本校の卓球部員とデモンストレーションを交えた講演会</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【デモンストレーション】 【TV局の取材】</p> <p>(2) 事前の準備 立石選手のプロフィール等のプレゼン資料を全校生徒に配付し、パラ卓球についての理解を深めた。</p> <p>(3) 講演語録 「障がいはその人の個性であること、不自由はあるけど不可能はない」</p> <p>(4) 講演の感想 ○障がいを感じさせない身のこなしで、ステージに飛び乗ったり卓球をしたりしていてすごいなと思いました。自分の長所をみつけて伸ばしていくことで、見える世界も変わるのかもしれないから、伸ばしていきたいです。 ○目標や夢に向かって頑張ることの大切さを学びました。何でもいから目標をつくってそれに向かって頑張りたいと思いました。努力していればきっと何かにつながって、また新しい目標が見えてくるんだと思いました。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>① 母校への誇りを持たた。 自分たちの先輩にプロ野球の世界で活躍した選手がいることを知り、一流の世界の話を直接聞くことが出来た。</p> <p>② 将来の進路を考えることができた。 プロ野球へ進む過程の話を聴き、中学校3年生の進路を決める上で、周りに流されるのではなく、自分の意志を強く持つことの大切さを学んだ。</p> <p>③ スポーツのすばらしさを実感できた。 逆境にあっても、自らの可能性を信じ努力したこと、そのこ</p>

	<p>とを理解してくれる監督との出会いなど、スポーツを通じて学んだ事の価値に触れた。</p> <p>④ 困難に挑戦することの価値を実感できた。 障がいの有無にかかわらず、すべての人に無限大の可能性があることが伝わった。</p> <p>⑤ パラリンピックに対する興味関心が高まった。 目の前で行われた卓球部員とのデモンストレーションを見て、その迫力に驚いていた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 現役時代の選手のことを知っている中学生はいないので、事前にプロフィールを学校通信で知らせたり、講演会当日、現役時代の動画を流したりして紹介した。 • 野球のことを詳しく知らない生徒もいるので、講師との事前の打ち合わせを重ね、野球の話だけでなく、中学校時代の話やスポーツを通じて学んだ事などエピソードを交えて話をしてもらうように依頼した。 • 講演だけでなく卓球のデモンストレーションを依頼し、卓球部員との実演を行った。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 学校通信を公民館等に配付して講演会をお知らせはしたが、地域の方から「こんな企画があることを知らなかった。是非参加したいので、今後は知らせて欲しい」という要望を頂いた。広報の仕方を工夫する必要があった。 • 寒い時期(11月、1月)の実施だったので、防寒対策が必要になった。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 今年地元で行われる聖火リレーの様子を教材化し、スポーツのすばらしさを実感できるようなプログラムを開発・実施する。 • 全校集会等でオリンピック・パラリンピックにちなんだ企画を取り入れ、東京2020大会への関心を高める。 • クラスマッチに変わる行事として、校内ミニオリンピック大会を開催し、体力向上を図る。 • 国際パラリンピック委員会(IPC)公認教材『I'm POSSIBLE』をつかった授業を継続して行う。